

## 市民と市長との対話集会会議録【要旨】

令和 6 年 9 月 20 日 加子母地区

### 北商工会加子母支部長 あいさつ

本日は、加子母地区の人口減少と商工業の事業承継をテーマにしているが、都市部であろうとも、田舎であろうとも、人口減少というのは避けて通れない。特に加子母にとっては本当に深刻な問題。その中で、どうやっていくのか、中津川市全体として加子母がどう貢献できるのか、ということをみんなと一緒に考えていきたい。

また、事業承継は、都市部と加子母のような山間部では違うところもある。都市部は工業が強く、山間部では農林業、商工が強いが、一人親方や少ない従業員の中で事業をしている方は事業承継が難しいのは都市部も山間部も同じ。皆さんいろいろなことを思っていると思うが、ぜひ活発な意見をお願いしたい。

### 市長あいさつ

4 月から始めた対話集会も本日で 18 回目になり、加子母地区では 4 回目。地域としては一番多いが、それだけ地域のことをそれぞれの立場で真剣に考えてくれていると思う。

対話集会では、一方的に要望事項を伝えるのではなく、皆さんに考えてもらったテーマに沿って、お互いそれをクリアするために何をしたらいいか、どうしていくのがいいかを話すことができればと思う。ぜひ有意義な時間になるようよろしくお願ひします。

### 進行

それでは、前半のテーマとして、加子母地区の人口減少について進めていきたいと思います。

### 支部長

加子母地区の人口の推移だが、平成 2 年の 3,506 人から令和 2 年の 2,498 人と、30 年間で約 1,000 人の減少。高齢化率も 21.8% から 42.5% と上昇していて、過疎・高齢化が進んでいる。

一番の問題は、将来の担い手となる子どもが少ないことで、昭和 60 年に小・中学校合わせて 421 人いたが、平成 13 年で 365 人、令和 6 年で 135 人で、平成 13 年と比べて半数以下になっている。問題なのは、令和 10 年には小学校 1 年生が 2 人しかいなくなり、小・中学校合わせて 90 人程しかいない見込み。目を背けたいような数字だが、これを踏まえ、いろいろな意見を伺えればと思う。

### 参加者

小売と飲食をやっているが、明らかに地元のお客さんの減少を実感している。高齢化に伴い、今まで来ていたお客様が徐々に来なくなってきた。家族連れも減

っている。その中で、巡回バスを利用して買い物に来てくれる方もみえるので、今後も必要に感じる。

人口減少で、既に事業所に人がいない中、今後さらに人が減っていくと、従業員がいなくなるのではないか、事業を継続していくのかという不安を感じている。

人が減れば、地域の役も増え、皆さん負担になっているのではないかと思う。どうにかしないといけないが、まずは加子母の中心となるこの商工会のメンバーで、前向きに盛り上げていきたい。

### 参加者

小栗市長のインスタグラムで、国有林、木曽ヒノキを活用していきたい、という投稿を見たが、例えばキャンプ場を加子母に作るなど、何か構想があるのかを伺いたい。

### 市長

リニアの岐阜県駅が中津川市にできる中で、どんなまちにしていくか。中津川市だけではなく、岐阜県としてもこの駅をどのように活用し、岐阜県を発展させていくか考えている。その中で、共通して進めようとしているのが「森のまちづくり」。具体的なことは決まってないが、この加子母、付知を含め、中津川市の面積の 8 割が森林。特に加子母地区は林業に携わる方も非常に多いと思うが、面積の 8 割が森林ということをいかに生かしていくか、それが中津川市としての特色のあるまちづくりになっていくと、市も県も捉えている。

観光面では、この周辺で観光してもらうために、どんな特色を出していくか。名古屋や東京のような都会的なものを作っても魅力が出るわけではなく、やはり田舎しさを出して、都会の人が品川から 50 分かけて中津川に来て、自然豊かなところで日頃の疲れを癒してもらうとか、安いでもらえるように、自然を生かした、森を活用したまちづくりが必須だと思う。

そのためには、この加子母や付知の山をどう活用していくか、ということをリニア開業までの約 10 年の間に、皆さんに意見をいただきながら、しっかり考えていかなければならない。

### 参加者

やはり人が少ない中、流れを変えるためには子育て世代の人が移住してくることが一番重要だと思うが、そのためには、移住してくる魅力や住む場所があるかどうか。商売をしていると、そういう土地を探している人もいるが、加子母地区内でもなかなか見つけられない。市では、どういうサポートがあるのか伺いたい。

## 市長

人口減少というのは、市内どこでも抱えている優先順位の高い課題だが、これをやれば人口が増えるということはない。何か良い方法はないかと考える中、1つは移住・定住を増やすということ。どう増やすかというのは非常に難しいが、加子母へ移住した方たちも加子母の良さを一生懸命PRしながら、いろんな活動をしている。川上や阿木などの市内各地でも、20～30代の若い方や移住した方々を中心に、人を増やすと、同じような取り組みをしている。情報共有しながら、連携をとり、そのような取り組みの輪を少しづつ広げていかなければいけないと思う。

そして、もう1つ大事なのは、やはり住むところ。空き家バンクでは、加子母にも空き家があると思うが、これから高齢化とともに増える空き家をどうやって活用していくのか。中でも、賃貸で借りられるような空き家を増やしていくことがとても大事。

移住される方は、いきなり家を買うのではなく、まずはちょっと住んでみよう、という方たちが多い。仕事は別の場所に通うという選択肢もあるので、まずは住んでもらうことが大事で、住むところを加子母で探さなければいけないし、作らなければいけない。

そのような取り組みをぜひ皆さんで進めてもらえると、何か違う動きになるのかなと思う。

## 司会

加子母より人口の少ない近隣の自治体では、安定して10人くらいのペースで子どもが生まれている。何がうまくいっているかというと、家を借りてもらうのではなく、譲ってしまう。人口が減っても土地は減らず、草刈りなど管理しなければいけないことを考えると、人に譲り、住んでもらったほうがいいと。そういう人たちを加子母に呼んで、話を聞くのも1つの手かなと思う。

## 参加者

健診や予防接種で、種類にもよるが、福岡地域など結構遠いところまで行かないといけない。小さな子どもを車に乗せ、40～45分程かけて、ちょうどお昼の時間帯の受付で、子どもがお腹が空いた、眠たい時に行かないといけないのが厳しい。そういうちょっとしたことが、もう少し若いお母さんたちに歩み寄ってもらえるといい。

親(祖父母)がサポートすればいいが親の生活もあるので、保育園のことも今の若い親さんたちは思っていることがたくさんあると思う。ぜひ若い世代の方々とたくさん話す機会を作ってもらいたいし、このような課題がちょっとでもクリアできていくと、移住・定住につながるのではと思う。

## 市長

まさにこういうお話を聞きたいと思っている。要望が叶わないこともたくさんあるとは思うが、皆さんそれぞれお住まいの場所も違うので、良いところもあれば、もう少し良くなればと思うところもある中で、そういったことに気付くのが市役所にとっては非常にありがたいこと。今のお話の件は、一度状況を含めて確認させてもらう。親さんたちにもぜひグループを作っていただき、対話集会ができればと思う。

## 参加者

先ほどの近隣自治体の話で、子どもが大きくなったら不便だからという理由で、まちのほうへ引っ越しされる方が多いとも聞いている。

子どもの通学の定期券について、中津川市では補助金の申請をすれば支援してもらえるが、それでも中津川方面が最大 21 万円、下呂方面が 16 万円、それが 3 年間と、それだけでも大変。また、中津川方面について、バスを運行している北恵那交通からは、加子母の利用者が 10 人を切ったら、加子母までは来ない、との話もあった。最近では、高校生の医療費が無料になったり、10 月からは児童手当の改定もあり、ありがたいが他の負担が大きいので残るものはない。利用者が 10 人を切るのも時間の問題。

## 参加者

うちの会社に息子が就職したが、周りが皆高齢化してしまい、一緒に仕事をしてもらえる若い人が必要。自分たちでも魅力を出していかないとと思うが、若い人が地元に残って就職することに対する補助があればと思う。

## 市長

子どもの数が減ってきていることと、昔に比べて進学率が高くなっている。以前は、商業、工業に行く生徒の一定数は卒業後すぐに就職してたが、今は就職する生徒が本当に少ない。加子母地区だけではなく、市内全体の企業で新卒が全然来ないと言っている。企業説明会などを市で企画しているが、エントリーしてもらうなど、何が引っかかるかわからないが、やれることは何でもやらないといけない。

## 進行

人口減少は、すごく奥が深く、いろんなところで議論していかないといけないと思う。では、後半のテーマの事業承継について、進めていきたいと思います。

## 北商工会加子母支部 事務局

中津川市恵北地区の現状として、令和 5 年度、商工会全会員(1,030 社、うち約 300 社から回答)に対して「事業承継アンケート」を実施した。現時点の加子母地区の商工会会員数は、163 社で、北商工会会員の約 16%を占めている。

後継者がいると答えた会員は 26%で、そのうち事業承継に向けて具体的に準備をしている方は約半数という結果。

次に、後継者がいないと答えた会員のうち、事業承継をしたい、できればしたい、また、相談したい、と前向きに考えている方が約 45%。そのうち、約 14%は、第三者承継で事業承継したいという回答があった。

対して、後継者がいないと答えた会員のうち、廃業予定と答えた方が約 55%。後継者がいないためもう廃業するしかないといった声も多くあった。

このような現状で、後継者がいる方に向けた支援と、いない方に向けた支援の 2 つのスタンスがあると考えている。後継者がいる方に対しては、事業価値を高めていく支援や先を見据えた事業承継の準備の後押しなどが中心になっている。また、事業承継の専門家派遣により、経営者交代による新陳代謝や企業活動の活性化にも取り組んでいる。

また、後継者がいない方に対する支援は、なかなか難しいが、親族の方や従業員への事業譲渡の可能性を探り、まずは後継者にできるかどうか話を進めていただいたり、それが困難な方に関しては、第三者への事業承継、事業譲渡などの手段を提案し、岐阜県の事業承継センターなどとの連携や、事業承継のマッチングサイトの登録、仲介会社の紹介などを実施している。

このように、地域内産業の継続や新たな創出、また担い手不足を理由に廃業となってしまうような事業を 1 つでも減らすといったことに取り組んでいる。

## 司会

事業承継は、自分の息子や婿へ引き継ぐ、他人に渡す、廃業といろいろなパターンがある。

## 支部長

後継者がいるなら、早ければ早いほうがいいと思うが、どれだけその事業を継続できるか、今の形でも新しい形でもいいが、いろいろと手探りでやっている状態。

## 司会

うちでは婿が引き継いでくれたが、借金はたくさんある、人手はない、いろいろな課題が多くてかわいそうに思う。やはり昔ほどは儲からなくなっているし、とにかく 1

日を回していくのが精一杯な中で事業を引き継ぐっていうのは、前の社長のカラーもあるし、かなりのエネルギーが必要。

### 参加者

僕はまだ 46 歳で、僕の世代はまだ大丈夫だが、観光業をやっていて今後のドライバー不足に悩んでいる。今ドライバーをやってくれている人たちは 60 歳以上の方が多い。人気の仕事ではないので、5 年後 10 年後が問題。

### 参加者

うちはまだ父親が社長だが、もし引き継いでも、次の代までは引き継がないと思う。おそらく将来的な需要が見込めないが、仕事を覚えたいと来てくれる子が何人もいるので、技術やノウハウを教えてあげて、僕が廃業したときの穴埋めになってくれたら嬉しいなど。この地域の屋根を守ってきた自負はあるので、遺伝子や魂くらいは残しておかなければと考えている。

### 参加者

うちは製材をやっているが、価格競争や量的な面もあり、先は見込めない商売なのかなと思う。物価高と言っている世の中だが、木材は基本的に下落していく状況にあり、引継ぎは難しい。

### 参加者

建設関係の仕事を僕 1 人でやっているが、僕の代で廃業かなと思っている。子どもたちも個人事業主にあまり魅力を感じていない。毎月給料をもらって、なるべく休みが多く欲しい子たちが増えてきた。

私自身、事業を始めるとき、商工会に入ってもなかなかはっきりしたことがわからなかったので、市や県、国で、創業支援などの情報を若い子たちにもらえると、創業しようっていう若い子が増えるのではないかと思う。

### 参加者

うちはそのうち世代交代するところだが、親がいなくなって、次に誰を入れるかが問題。少人数で動かせるようにするか、パートで短時間入ってくれるような人たちを探し、事業を進めていくのがいいのかなと思っている。

### 参加者

山で木を切る仕事を生業にしているが、人口減少に関しては、私自身はあまり悲観してなくて、むしろ面白いのではないかと思っている。

## 進行

事業承継はいろいろあると思うが、商工会でお菓子や木工の専門校を回り、物件の説明などをするれば、もしかしたら若い子が新しい発想でチャレンジしてみようと、加子母に来てくれて、住んでくれて、自分の商売をやってくれないかなと思っている。では、最後に市長お願いします。

## 市長

先ほどの起業の話ですが、市としても補助金などの制度はあり、相談できる場所とか、何かしらの支援は考えていかなければいけない。商工会とか商工会議所の方がノウハウもメニュー、起業してからのサポートもあると思うので、活用するといいのではないかと思う。

私も企業経営してたので、事業承継は本当に大きな悩み。企業経営で一番大事なのは存続することで、そこに事業承継が絡んでくる。今、全国的にも後継者がいない、廃業を考えているところが 5、6 割いると思うが、そういう方々が、自分のところだけでは存続できないが、例えば商工会の中で、同じような業態で一緒にやっていければできるのではないかと模索するのもいいのではないか。そういうことが、加子母のこれから発展や少子化対策につながるのではないか。加子母には、地域を盛り上げたいと一生懸命取り組む方がたくさんいるので、人口減少や事業承継も、そのカーブを緩やかにしたり、微増していくことはできると思う。そのために前向きな意見を出していくことが大事だ。

働き手の確保という面では、若手が集まらない中で、外国人も選択肢としてはある。今、市内でも 3,000 人ぐらいの外国人の方が中津川で働いている。また、例えば、区長とか地域の役を担う人がいなくなってしまうなど、痛し痒しなところはあるが、高齢者の方にできるだけ長く働いてもらうことも、今まで以上に考えていかなければならない。

テーマが難しいので、これという答えはないが、大事なのは皆さんで知恵を出していくこと。皆さんで共通の悩みについて話をするということが大事で、市としても何か一緒にになってできることやサポートできることをやっていく必要がある。

本日は貴重な機会をありがとうございました。

## 副支部長あいさつ

本日は対話集会ということで、市長がとても身近になったような気がしますし、皆さんも悩みや意見が共有できて非常に有意義な時間になったと思う。これからもこういう場を設け、一緒に考えながら、加子母を盛り上げて、悩みを解決し、前向きに進んでいけたらなと思う。本日はありがとうございました。